

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

令和2年8月21日(金)

8・9月号 児童数 923名

TEL:048-461-0410



【学校教育目標】 「心豊かに自ら学ぶたくましい人間の育成」

思いやりのある子 自ら学ぶ子 元気な子

【めざす学校像】 「学ぶ喜びと感動のある学校」

【朝霞六小の合言葉】 ～花あり 歌あり 笑顔あり～



「特別な夏」から「特別な秋」へ

校長 木村 直美

8月1日から8月20日までというとても短い夏季休業日が終了し、学校に子供たちの声が戻ってきました。20日間の“夏休み”は、東京都知事が記者会見で「今年は新型コロナウイルスの感染拡大を抑え込む特別な夏だ」と述べ、「旅行や帰省」「夜間の会食」「遠くへの外出」を控えるように呼び掛けたことに代表されます。東京都に隣接している埼玉県民もおそらく「特別な夏」を意識して過ごしたことでしょう。

また、8月17日の毎日新聞に、「勝っても涙 特別な夏の『最高の舞台』 甲子園交流試合が閉幕」という記事がありました。交流試合は、新型コロナウイルス感染拡大で中止となった第92回選抜高校野球大会に出場が決まっていた32校に甲子園での試合機会を設けようと開催され、各チーム1試合ずつ計16試合が行われたものです。原則無観客で、観戦は部員や保護者、一部学校関係者に限られ、真夏にマスク着用で、座席の間隔を空けて観戦。声を出しての応援や鳴り物を使った応援も禁止されました。自然な感情を拍手や手拍子に乗せてグラウンドの選手たちを後押ししたのです。16試合で本塁打は2本と少なく、完封試合はありませんでした。新型コロナの影響で練習できない日が続き、夏の全国高校野球選手権大会も中止になるなど「一時は目標を失いかけた」と口をそろえた選手たちですが、1試合限りの特別な夏は、勝ったチームの選手が涙を流す光景が目立ったそうです。試合後、多くの選手たちは「開催して下さった方々に感謝したい」と述べ、「甲子園は最高の舞台だった」と喜びをかみしめていたといいます。声を出さない観戦と応援、代替行事を開催するという約束を果たそうとした大人たちの思い、それらは確実に選手に伝わっていたのだ、それぞれの心はがっちりつながっていたのだと胸が熱くなりました。

「特別な夏」は終わることなく、そのまま「特別な秋」につながっていきます

運動会は「体育発表会」「校内陸上大会」へ、林間学校は日帰りの代替行事へと本校でも変更を余儀なくされていますが、子供たちに「最高の舞台」を用意できるように準備を進めています。その思いは、子供たちにも保護者の皆様にも伝わると信じています。春から秋に延期した修学旅行についても先日、実地踏査を終えました。宿泊先も大きなホテルに変更、部屋数を増やし、昼食場所は倍のスペースを確保するなど最大限の感染防止策を講じ、実施に向け、栃木県や関係者と協議をしながら取り組んでいます。

「特別な秋」、子供たちを真ん中に据えて、保護者の皆様、地域の皆様と本校教職員一同、力と心を合わせて日々を過ごしていきたいと考えております。ご理解、ご協力を賜りたく存じます。

新型コロナウイルス感染拡大防止と同時に暑い中での2学期の開始ということで、熱中症予防にも全力で取り組んでまいります。ご家庭でも、規則正しい生活リズムを構築し、「早寝、早起き、朝ごはん」を遂行していただくよう重ねてお願いいたします。2学期もどうぞよろしくお願ひいたします。